

# 第30回 ももたろうCTイメージングセミナー 記念大会

ももっち  
Momotaro CT Imaging Seminar : MomoCTIセミナー

謹啓

季秋の候、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。この度、ももたろうCTイメージングセミナー記念大会を開催させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。つきましてはご多用中の所誠に恐縮とは存じますがご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

日時 : 令和6年3月9日(土曜日) 14:00 ~ 17:00

参加費 : 500円

開催方法: Hybrid開催 (webはZoom Webinarにて配信)

開催場所: 岡山済生会総合病院 4階 さいゆうホール

参加方法: 参加登録 締め切り **3月5日**

[https://app.payvent.net/embedded\\_forms/show/6540d5c7df120f4a8e4ec669](https://app.payvent.net/embedded_forms/show/6540d5c7df120f4a8e4ec669)

上記URLまたはQRコードから必要事項を入力して参加費をお支払い下さい。

現地参加またはWeb参加を選択してください。

確認メールにてWebinar登録用URLを送付致します。

当日お時間になりましたらLIVEセミナーページにアクセスしてご参加ください。



## テーマ 『 Pioneer に聞く - 診療放射線技師としての歩みと New Technology - 』

総合司会 岡山済生会総合病院 放射線技術科 中川 潤一 先生

《情報提供》14:00~14:10

開会の挨拶 岡山大学病院 放射線部門 赤木 憲明 先生

【特別講演Ⅰ】14:15~15:05

座長 津山中央病院 放射線技術部 藤田 卓史 先生

『CT検査を100倍楽しむ方法』

倉敷中央病院 放射線技術部 CT検査室 山本 浩之 先生

—— 休憩 ——

【特別講演Ⅱ】15:10~16:00

座長 岡山大学病院 放射線部門 赤木 憲明 先生

『最後は人で決まる：診療放射線技師レジデント制度までの道のり』

国立がん研究センター東病院 放射線技術部 村松 禎久 先生

—— 休憩 ——

【特別講演Ⅲ】16:10~17:00

座長 岡山済生会総合病院 放射線技術科 西山 徳深 先生

『CTとの共演：定年までの歩みと未来への志』

藤田医科大学 東京先端医療研究センター 井田 義宏 先生

閉会の挨拶 岡山済生会総合病院 放射線技術科 西山 徳深 先生

- \* 日本救急撮影技師認定機構 認定団体 2ポイント
- \* 日本X線CT専門技師認定機構 認定講習会 3単位
- \* 肺がんCT検診認定機構 認定団体 5単位

ご登録頂いたご施設名・ご芳名は医薬品および医学・薬学に関する情報提供のために利用させて頂くことがございます。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

共催:岡山CT技術研究会/岡山済生会総合病院/エーザイ株式会社

後援:公益社団法人 岡山県診療放射線技師会

## 現地参加される方へ

岡山市北区国体町の岡山済生会総合病院駐車場をご利用ください。（岡山駅西口より徒歩9分）  
伊福町の外来センター病院ではありませんのでご注意ください。



正面出入口右側の職員専用出入口および職員専用エレベーターをご利用ください。  
当日は14時30分までスタッフがおりますが、それ以降は総合受付職員にお声がけください。



### 職員専用出入口

- ▶本講演会は、ご参加登録をいただいた医療関係者の皆さまに限り、ご視聴いただくことが可能です。
- ▶本講演会の内容(話される内容や投影される文字、写真、図、イラストなど)の無断での複製、転載、改変その他の二次利用はお控えください。

# 第30回 ももたろう CT イメージングセミナー記念大会抄録

テーマ「Pioneerに聞く - 診療放射線技師としての歩みと New Technology -」

## 特別講演1 山本 浩之先生

### 『CT検査を100倍楽しむ方法』

皆さん、仕事楽しんでますか？自分が就職した1985年(昭和60年)頃はファミコンブーム(スーパーマリオブラザーズ)で、アナログからへとデジタルへと大きく変化を始めた頃でした。当時の撮影技術は個人の経験で培ったスキルが教科書であり、先輩方の匠の技を盗む？教えてもらうのは大変で、どうやってノウハウを聞き出そうかといつも考えていたものです。それでも今思い起こせば、そのような状況でも楽しく仕事できていたのはやはり温かいコミュニケーションがあったからだと思います。厳しい中にも温かり思いやりがある指導、そんな時代でした。

近年、ダイバーシティやタスクシェアという言葉をよく耳にしますが、自分からすればこれは昔に戻るようなものだと感じています。4年目から10年間在籍したアンギオ時代はカテの準備や看護師さんの手伝いは当たり前のことで、チーム医療の一員であることを実感しながらしんどいけど楽しく仕事していました。

今回、2000年から携わったCT検査を通じて「どうやって仕事を楽しむか」皆さんの一助になれば幸いです。

## 特別講演2 村松 禎久先生

### 『最後は人で決まる：診療放射線技師レジデント制度までの道のり』

先だって、貴会の西山徳深先生より、「診療放射線技師としての歩みについて振り返り、今後の抱負ならびに最新の研究について講演いただきたい」とのご依頼をいただいた。ご依頼を鑑み、以下の内容でお話をさせていただくこととした。

診療放射線技師は国家資格であり、医師の指示の下に、何らかの人体影響がある放射線を照射することが許される生業である。放射線診断画像において線量の増加は画質の向上をもたらすが、診断能は一定の線量で飽和する。迷う時は、画質と線量のバランスを常に意識してきた。専門としているCTの線量評価は私の成長を促し、CT-AECの開発・リリースは念願であった。

一方で、私の性格はスーパースターを追いかけるファンの代表者である。私を指導した松田幸宏先生、三塩宏二先生、そして花井耕造先生は誰もがスターであった。ファントムと線量計を車に載せて、先生方と各施設への訪問を通じて、さらに多くの先生方に出会えた。そして、那須工場でのMichael McNitt-Gray, Ph.D.との直接の会話とここから広がった国際的な交流は、正にミーハーとしての私の真骨頂であった。

時が流れ、日本のがん診療の中心となる施設での部門長としての生活は、自由気ままであった。運よく永井優一副室長(現、部長)のサポートもあり、部門外へのアピールのみが私の主な業務であった。多くのスタッフが院内外を問わず、様々な環境に身を投じ活躍してくれている。しかしながら、世界をリードすることを求められる当施設では、さらなる高みを目指すことは必然であった。その具体的な方策は、診療放射線技師のレジデント制度の構築であった。初期レジデント3年、さらにチーフレジデント2年を経て、任期無し常勤職員採用試験資格を初めて得る、厳しい関門である。現在、2年目を迎え、3名のレジデントが所属し懸命に修行に励んでいる。

おわりに、現在、NCC 柏キャンパスでは、次世代型CT装置の研究開発を進めており、他のいくつかのプロジェクトも含めて、その窓口役を仰せつかっている。すべてのプロジェクトが現在の医療を変える可能性を秘めており、常にそれが求められている。

### 特別講演3 井田 義宏先生

#### 『CTとの共演：定年までの歩みと未来への志』

私は1988年にCT検査室へ配属され、それがすべての始まりでした。当時、名古屋保健衛生大学（現在の藤田医科大学）では、本邦初の診療放射線技師の4年制大学が設立され、中堅職員の多くが大学教員へ転籍していく時期でした。その中で、辻岡勝美先生が私をCT検査室に配属するように推薦してくださいました。

その後、私はヘリカルスキャンの開発チームに加わり、そのまま東芝（現在のキヤノン）CTの開発に携わることとなりました。20代後半の若輩者として、開発の技術者や営業戦略の方々とのミーティングに参加できたことは、その後の見識を広めていく絶好の機会でした。これらの経験を基に、学会などでも多くの役割を果たすことができましたが、その中でも日本放射線技術学会撮影部会の事業であるX線CTの標準化 GALACTIC の編纂、本邦初の診断参考レベル策定、日本X線CT専門技師認定機構の設立など、多くの貴重な経験を積むことができました。

昨年、無事に定年を迎え、現在は藤田医科大学羽田クリニックの立ち上げに携わっています。自由診療や会員制の精密健診、インバウンド対応など、これまでの標準医療とは異なる方向性の医療に挑戦しています。保険医療ではできなかった領域への挑戦は、新たなセカンドライフの始まりであると感じています。